



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第1回「今年の注目イベント カレンダー」

今年、年初より大地震や羽田空港での衝突炎上事故など予期せぬ災害や事故などで始まりました。

被災された方々や事故にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

ウィークリーレターの本年第1番目としまして、今年の注目される政治・経済のイベントについてまとめてみました。今年、世界40か国以上で大統領や首相、議会選挙などが行われます。国のリーダーが変わるとき、それまでの政策が根本的に変わる場合があり、その影響は否応なく金融市場へ波及します。この影響を見越し投資家の一部はイベントに向け大きな資金を動かし、市場を大きく動かすことで利益を上げようとする場合があります。そのため、世界の金融市場は経済状況だけではなく、選挙動向など政治動向にも左右される年となるでしょう。

あらかじめ選挙イベントや経済イベントを頭の中に置き、市場がどのように動くのかを想定しておくことは投資を考える上で重要であると思います。そこで注目される年間予定を確認していきたいと思います。

### ～注目イベント① 米国大統領選挙～

まず、なんといっても今年のメインイベントは米国大統領選挙です。米国の大統領が民主・共和どちらになるか、または誰になるかによって世界経済の行方は変わることになるため世界の投資家が注目しています。また、その動向によって金融市場は大きく揺らぎます。

米国大統領選挙は、民主・共和両党がそれぞれ大統領候補を1本化する予備選と11月5日に投開票される本選の2段階方式で実施されます。前回の大統領選挙で不正が行われたと主張したトランプ前大統領と与党民主党のバイデン現大統領の一騎打ちが予想されていますが、果たしてそうなるのか。共和党の次期大統領候補を選ぶ初戦のアイオワ州の党員集会は1月15日に開催されます。この日から米国大統領選は火ぶたが切られます。2月3日にはサウスカロライナ州で民主党の大統領候補を選ぶ予備選が始まります。3月5日のスーパーチューズデーでは多くの州で予備選が行われ、両党の大統領候補が絞り込まれます。その後も各州での予備選は続き7月中旬までに民主・共和両党の大統領候補が確定し、一騎打ちの大統領選挙本選となります。最終の本選挙は11月5日、即日開票によって翌日までには次期大統領が決まります。(年間スケジュールを参照)

## ～注目イベント②～ 日・米・欧の金融政策決定会合

もう一つの注目イベントですが、やはり日・米・欧の中央銀行による金融政策を決める会議です。今年の金融市場の第1の注目点は、米国FRB（米国の中央銀行制度の最高意思決定機関：連邦準備制度理事会）やヨーロッパ中央銀行（ECB）が、インフレ圧力低下に伴い、いつ利下げをするのか、どの程度のスピードで行うのかということですが。また、日本銀行についてはこれまでおよそ7年間続けられてきたマイナス金利政策をいつ解除し、政策金利をどこまで引き上げていくのかが市場の第2の注目点です。それぞれの中央銀行の政策決定会議は年8回あります。（年間スケジュールを参照）この中でも特に注目されるのは、米国の連邦公開市場委員会（FOMC）の3月、6月、9月、12月の会合です。四半期の最終月に行われるFOMCでは参加理事達の今年を含む今後3年間の年末の政策金利や米国の経済状況の予想が提示されます。この予想が今後の金融政策をどのように進めていくかのヒントを示すことになり注目されます。特に米国の先物・オプションなどの特別清算値が確定する日（3月、6月、9月、12月の第3金曜日）の直前に開催されるFOMCの内容次第で市場の動きが一変する場合がありますので注意が必要です。今年は6月、9月、12月に開催されるFOMC前後では市場の動きが急変する可能性もあるので注意が必要です。また、3月のFOMCは最初の利下げが行われるとの期待が大きく、日本の春分の日（3月20日：春分の日）にかけて開催されることから注意が必要です。

## ～注目イベント③ 国内イベント～

次に国内の注目イベントを見ていきましょう。（年間スケジュールを参照）

まず、7月3日に20年ぶりに新紙幣が発行されます。1万円券の人物は「渋沢 栄一」、5千円券は「津田 梅子」、1千円券は「北里 柴三郎」となります。新紙幣の発行で賃金もどんどん上昇し、デフレ経済からインフレ経済への転換が促進されることになればよいと思います。

9月末には岸田自民党総裁の任期満了となります。昨今の自民党派閥の政治資金規正法違反により逮捕者が出る状況の中、総裁を続投し来年の衆議院議員選挙を戦えるのかどうか、衆議院解散、総選挙となる動きも内包される重要イベントとなるでしょう。

11月5日には東証の次期売買システムの稼働に合わせて、株式取引時間が延長されます。現在、後場の立会時間は午後3時までですが、30分延長され午後3時30分までとなります。現在の1日の取引時間が5時間ですが、この日以降5時間30分となります。取引時間が長くなることで売買量、売買高は増加し、市場の厚みも増すと考えられます。

## ～注目イベント④ 国内外スポーツイベント～

最後にスポーツのイベントを確認しておきましょう。今年はオリンピックイヤーです。パリ・オリンピックは7月26日～8月11日、パリ・パラリンピックは8月28日～9月8日の日程で開催されます。ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルとパレスチナの紛争が続く中でスポーツの祭典が開催されます。ぜひとも平和をもたらす祭典になって欲しいと願うばかりです。国内に目を移すと、10月26日から始まるプロ野球日本シリーズです。昨年は阪神タイガース対オリックス・バファローズと関西の球団で日本一を戦いました。今年も阪神タイガースは「AREのARE」を目指して日本シリーズに進出することが期待されます。

以上、今年の注目イベントについてみてまいりました。

今後、今年の市場が上記のイベントでどのような影響を受けるのか、市場はどう動くのかなどを注意深く見ていきたいと思っております。

# 西村証券

## 2024年 注目イベント カレンダー

1月	13日:台湾総統選挙 15日:米国共和党 大統領選挙候補 予備選開始(アイオワ州) 22~23日:日本銀行金融政策決定会合 25日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 30~31日:米国FOMC
2月	3日:米国民民主党 大統領選挙候補 予備選開始(サウスカロライナ州)
3月	5日:米国大統領選挙予備選(スーパーチューズデイ) 7日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 17日:ロシア大統領選挙 18~19日:日本銀行金融政策決定会合 19~20日:米国FOMC
4月	11日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 25~26日:日本銀行金融政策決定会合 30~5月1日:米国FOMC
5月	4月~5月にかけて行われる。インド総選挙 モディ首相率いるインド人民党が最大野党の国民会議派に勝てるか
6月	6日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 11~12日:米国FOMC 13~14日:日本銀行金融政策決定会合 17日:G7サミット(主要7か国首脳会議)
7月	3日:新紙幣発行 15日:米国共和党 大統領選挙候補を指名 18日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 26日:パリオリンピック開幕(8月11日まで) 30~31日:日本銀行金融政策決定会合 30~31日:米国FOMC
8月	28日:パリ・パラリンピック開幕(9月8日まで)
9月	12日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 17~18日:米国FOMC 19~20日:日本銀行金融政策決定会合 月末:岸田自由民主党総裁の任期満了
10月	17日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 26日:プロ野球日本シリーズ開幕 30~31日:日本銀行金融政策決定会合
11月	5日:東証が株式の取引時間を延長(終了時間15:00→15:30) 5日:米国大統領選挙の投開票日 6~7日:米国FOMC
12月	2日:健康保険証の新規発行停止 12日:ECB(ヨーロッパ中央銀行)理事会 17~18日:米国FOMC 18~19日:日本銀行金融政策決定会合

(西村証券 作成)